

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

令和 元年 9 月 2 0 日
川 越 町 教 育 委 員 会
川 越 町 立 川 越 中 学 校

本年 4 月、中学校 3 年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



1. 学力・学習状況調査結果

全国学力・学習状況調査について

昨年度まで、A問題（主として「知識」に関する問題）とB問題（「活用」に関する問題）に分けて実施されていましたが、本年度からは統合して実施されています。

（１）学力調査の結果

□全体の傾向・・・正答率の低い生徒は少なく学力の底上げが見られる。
(学力の向上が進んでいる。)



国 語：正答率のやや低い生徒がやや多い。

数 学：正答率の低い生徒から高い生徒まで同じような割合で存在する中、正答率の高い生徒がやや少ない。

英 語：平均正答率あたりに多くの生徒が占めており、正答率の低い生徒は極めて少ない。

	強みと弱み（強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」）
国語	◎文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考え方を持てる生徒が多い。 ◎書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができる生徒が多い。 ◇封筒の書き方を理解して書くことに課題がある。 ◇長文や複数の資料から要旨を捉えて、自分の考えをもつことが苦手な生徒の割合が多い。

数学	◎簡単な場合について、確率を求めることができる生徒の割合が多い。 ◎証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している生徒の割合が多い。 ◇一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解し、具体的事象を捉えて説明することに課題がある。 ◇表やヒストグラムなどの資料の傾向を読み取り、最頻値・中央値などの用語を用いて数学的に説明することに課題がある。
英語	◎日常的な話題などについて、情報を正確に聞き取ることができる生徒が多い。 ◎日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる生徒が多い。 ◇聞き取りや読み取りから把握した内容について、自分の思いを英文で書いたり、話したりする力に課題がある。 ◇与えられたテーマについて考えを整理し、比較的長い文章（英文）で書くことに課題がある。

(2) 生徒質問紙による生活調査結果

① 学習時間帯

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師含む）

・学習時間が1時間以上の生徒の割合・・・全国：69.8％ 川越町：61.6％

***毎日1時間以上学習する生徒の割合は全国平均より低い。**

② 計画的な家庭学習

Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

・（どちらかといえば）している児童の割合・・・全国：50.4％ 川越町：45.6％

***家で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合は全国平均より低い。**

③ 読書習慣

Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）どのくらい読書をしますか。

・1日の読書が30分以上の生徒の割合・・・全国：27.0％ 川越町：22.4％

・読書を全くしない・・・全国：34.8％ 川越町：40.0％

***「全く読書をしない」生徒の割合が40%で、全国平均より高い。**

④基本的な生活習慣

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている生徒の割合・・・全国：57.0% 川越町：53.6%

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている生徒の割合・・・全国：33.6% 川越町：33.6%

***就寝時間に関しては、不規則な生徒がやや多い。**

⑤自尊感情

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・（どちらかといえば）あると答えた生徒の割合・・・全国：74.1% 川越町：74.4%

***約3/4の生徒が「自分には、よいところがある」と肯定的回答している。**

⑥キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

・（どちらかといえば）持っている生徒の割合・・・全国：70.5% 川越町：66.4%

***約2/3の生徒が「将来の夢や目標を持っている」と肯定的回答している。**

⑦家庭でのコミュニケーション

Q：家の人と学校での出来事について話をしていますか。

・（どちらかといえば）話をしている生徒の割合・・・全国：76.4% 川越町：70.4%

***約30%の生徒が、家の人と学校での出来事について話すことについて否定的回答をしている。**

⑧主体的・対話的な深い学びについて

Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

・（どちらかといえば）取り組んでいた生徒の割合・・・全国：74.8% 川越町：76.0%

Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

・（どちらかといえば）工夫して発表していた生徒の割合・・・全国：55.8% 川越町：54.4%

Q：生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

・（どちらかといえば）できていると回答した生徒の割合・・・全国：72.8% 川越町：66.4%

***約3/4の生徒は主体的に学習している。また、約2/3の生徒は、生徒間の話し合い活動において自分の考えを深めたり広めたりできている。しかし、「自分の考えをうまく伝わるように工夫して発表している」と肯定的回答した生徒は約半数となっており、やや苦手であるといえる。**

（3）学校質問紙の結果からみえる生徒の姿

- ① 学力定着のために、「国語・英語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えたか」という問いに対し、全校的に取り組んできたので、「よく行った」と回答している。こういった取り組みから、生徒全員が回答している設問が増え、選択式・短答式問題については、無答率がほぼ全国や三重県よりも下回っている。しかし、記述式問題は、無答率がほぼ全国や三重県よりも上回っていることから、記述を求める課題を毎日の授業や家庭学習に取り入れる必要があるととらえている。

- ② 「国語・数学・英語において、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか」という問いに対して、全校的に取り組んできたので、「よく行った」と回答している。そして、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の問いに、約90%の生徒が肯定的回答を行っていることから、基礎・基本は概ね定着しているにとらえている。
- ③ 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか」という問いに対し、90%超の生徒が肯定的回答をしているが、「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに対して、肯定的回答を行った生徒の割合は約75%に留まっている。そのため、生徒が達成感を味わった直後に、機を逃さず誉めるなど、一人一人により点や可能性を見つけ、積極的に評価および承認を行っていくことで、自尊感情の高まりへつなげていく必要があるにとらえている。
- ④ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対し、約73%の生徒が「当てはまる」、約23%の生徒が「どちらかといえば、当てはまる」と回答している。「前年度までに、道徳の時間において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしましたか」という問いに対し、「よく行った」と回答しているように、道徳の時間をはじめ、「命を大切にする講演会」などを通じて、学校生活全般において、互いの考え方を交流したり自らの考えを深めたりしている。このような機会を通して人権意識の高揚が図られているにとらえている。

2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策



全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、生徒自身が「何を学んだか」「どんなことができるようになったか」を実感できるよう授業改善を進める。

1. 「めあてとふりかえり」（目標の提示、振り返り活動）のある授業の徹底を図り、子どもたちが「できた」と実感が持てる家庭学習へつなげる。
2. 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
3. 自分の考えを整理して書く力をつけるための指導を行う。
4. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、生徒の興味関心に応じた題材を設定したり、目的や相手を明確にしたりすることで、生徒が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく（国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく）。
- ・自分の考えを書く活動では、順接、逆接、並列など、言葉と言葉や文と文の関係を考えながら正しい接続語を使えるように指導する。

2. 語彙（ごい）を豊かにする指導の工夫

- ・文脈に即した漢字や語句を習得するために、例文やフレーズで覚える学習を数多く取り入れる。
- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりする。読書タイムを設定するなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

3. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限などの条件を与えて書かせるようにする。
- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。
- ・学習したことが日常生活につながっていることを意識できるような授業づくりを心がける。

4. 短時間で文章から様子やあらすじをイメージし捉える力をつける

- ・初めて読む文章から得た情報を整理し、短時間で大まかな「あらすじ」をつかんだり、登場人物の心情について確認したりする学習活動を行う。

数 学

1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・社会の事象や数学の事象から課題を見出し、生徒が主体的に取り組める授業を展開していく。また、数学の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
- ・数学用語、数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
- ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
- ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。

3. 図形の性質や構成要素を正しくイメージし理解できるように

- ・実際に平面図形を使って操作させるなど、具体物を使う経験をさせる活動時間をしっかりと確保をする。
- ・ICT機器の導入に伴い、映像を見たりソフトを活用したりすることがより容易になる。「図形イメージの確認や理解」のためにICT機器の活用を積極的に行う。

英 語

1. スモールトークの充実

- ・聞き取った英語に対して、自分の考え方や思いを持ち、英語で伝える習慣をつけていく必要がある。小学生の段階で習慣化したスモールトークを充実し、中学生では、自分の考えや思いをより詳細に英語で伝える力を育成する。

2. A L Tを有効活用した授業

- ・A L Tを有効活用し、ネイティブの英語に触れる機会を増やすことで、英語を聞く力の向上を図るとともに、英語でのコミュニケーション力を育成する。

3. 町教育委員会による手立て



(1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

(2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びA L Tの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

(3) 学力向上推進委員会の機能的な運営

川越町学力向上推進委員会において、各学校の児童生徒分析や取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

(4) 校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を拡充します。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

(5) 家庭学習および読書活動の推進

三重県下で展開されている学力向上県民運動と連動しながら、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、「家庭学習の定着に向けた取組の必要性および具体的な家庭支援法」を各家庭へ呼び掛けていきます。また、「読書旅行（読書日本一周・読書世界一周）」の取り組みを推進し、小学校低学年から語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成

2019年4月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。

『豊かな心』を培うために必要なこと（3つ）、

「非認知能力を高めること」

「個性を大切にすること」

「相手の個性を尊重すること」

を大切にし、教育活動を行います。



4. 川越中学校の取り組み



(1) 日々の授業改善

生徒が「わかった」・「できた」と思えるような授業づくりを心がけながら、教科・学年・経験年数を越えた研修チームを組み、教員同士がお互いの授業を見せ合い、日常的に授業改善を行う。なお、年1回は、川越町教育委員会または北勢教育支援事務所の指導主事の参観のもと、指導・助言を受け、その取り組みを振り返る。

(2) 学習支援の強化

数学と英語を中心に、TT や少人数指導を継続するとともに、教員の空き時間を利用した校内の見守りの際に、生徒が「わかった」・「できた」と思える支援を行う。

(3) 放課後・長期休業日を利用した補充学習

全学年を対象に、テスト期間に質問日を設定し、わからないところを気軽に聞ける機会を増やす。また、長期休業中には補充学習日を設定し、学習ボランティアを加配することで、より個に対応した支援を行う。

(4) 家庭学習の充実

各教科で毎日の家庭学習につながる授業づくり、宿題設定を継続して行う。また、生活習慣・読書習慣チェックシート等の集計結果を学年・学校たより等で家庭に周知して、生徒・学校・家庭のつながりを強化し、家庭学習に取り組む姿勢の改善を図る。

(5) 学力向上通信の発行

学習することへの興味・関心を高めるため、不定期で学力向上通信を発行する。解いてみたいと思わせる問題や、知識を活用しないと解けない問題を掲載し、探究することの面白さを感じさせる。

(6) 新聞ワークシート通信の活用

週1回程度、朝読書の時間に、新聞を扱ったワークシートを全校で配付し取り組ませる。複数の難易度のワークシートを用意し、自分で選択して読ませる。活字に触れる機会を増やし、短時間で読み取るトレーニングとして活用する。

(7) 「割合」に関する掲示物の作成・ワークシートの活用

「割合」の概念を捉えることに課題があるため、小学校で学習してきた割合の図や表、グラフなどを廊下等に掲示し、振り返らせる。また、県が作成したワークシートを、すきま時間や家庭学習で活用する。

(8) 統計グラフの作成と掲示

専門委員会等を利用して、行政の統計データや生徒アンケートから得られたデータをグラフ化して掲示する。日ごろよりグラフからどんなことが言えるのかを考える習慣をつけさせる。

(9) 学調・みえスタで課題のみられた問題の再活用

各学年で学調・みえスタの分析を行い、課題のみられた問題を数点ピックアップし、県が作成したワークシートを長期休みの学習で活用する。また、授業でも学調、みえスタの問題を再活用したり、県が作成したワークシートを活用したりして、グループ活動で全員ができるように指導する。

(10) 学力向上ポートフォリオの作成

読売ワークシート通信や県作成のワークシートなど、学力向上に活用したプリントなどをひとつのファイルに綴じて、学びの軌跡を残していく。

(11) 与えられた条件のもと、自分の考えを書く力をつける授業

「与えられた条件のもと、自分の考えを書く力」に課題が見られたことから、各教科で教科特有の具体的な取り組みを挙げ、学校全体で与えられた条件のもと、自分の考えを書く力を育む授業を行う。

5. 家庭・地域へのお願い



(1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことで、子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童・生徒》・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。

- ・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- ・机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。

《保護者》・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

(2) テレビ、ゲーム、スマートフォン等との上手なつきあい方を教える・・・ルール作り

テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、家庭でのルールづくりをしていただきますようお願いします。家族同士の触れ合いはコミュニケーション能力の向上にもつながります。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。 など

(3) 難しいことにも挑戦する心を育てる・・・ほめて伸ばす

今回の児童生徒質問紙の結果からも、「約20%の児童、約30%の生徒が、家の人と学校の出来事について話をしていない」という状況がみられました。また、全国的に、自分自身になかなか自信が持てず、自分で考えたり、自分で決めたりしにくい子どもが増えています。「家族で決めた約束が守れた」「頼んだ仕事ができた」など、子どもが何かを継続して行ったときや、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、過程も含めて、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。人のことを考えず、我慢のきかない子どもにならないように、悪い事は悪いと教え、目指すべき良き行動がとれるように子どもを導いていきましょう。

(4) 親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする・・・家庭読書習慣

「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。はじめは受動的な読書かもしれませんが、その時間を継続的にもつことで、やがて子ども自らが本と向き合うことのできる能動的な読書へつながっていくと考えます。ぜひ、子どもたちの「本を読んでほしい」「本を読みたい」という気持ちを大切にしていきましょう。

みえの学力向上県民運動

学校・家庭・地域の教育力を高めよう！

みえの学力向上

検索

